

北海道

- 農畜水産物、食料・飲料の卸売年間商品販売額が 大きい北海道 -

北海道の卸売年間商品販売額をみると、農畜・水産物の加工が盛んなことから、農畜産物・水産物卸売業、食料・飲料卸売業の全国順位が高くなっています。

事業所数は、北海道の卸売業の40.6%、小売商店の24.2%、年間商品販売額では卸売業の57.2%、小売業の34.7%が札幌に集中しています。

また、寒冷地であることから燃料小売業の販売額も多くなっています。

業種別に全国順位をみると、農耕用品小売業、燃料小売業の全国順位が事業所数、就業者数、年間商品販売額ともに1位となっています。

1. 事業所(小売は商店)数、就業者数、年間商品販売額 (平成19年)

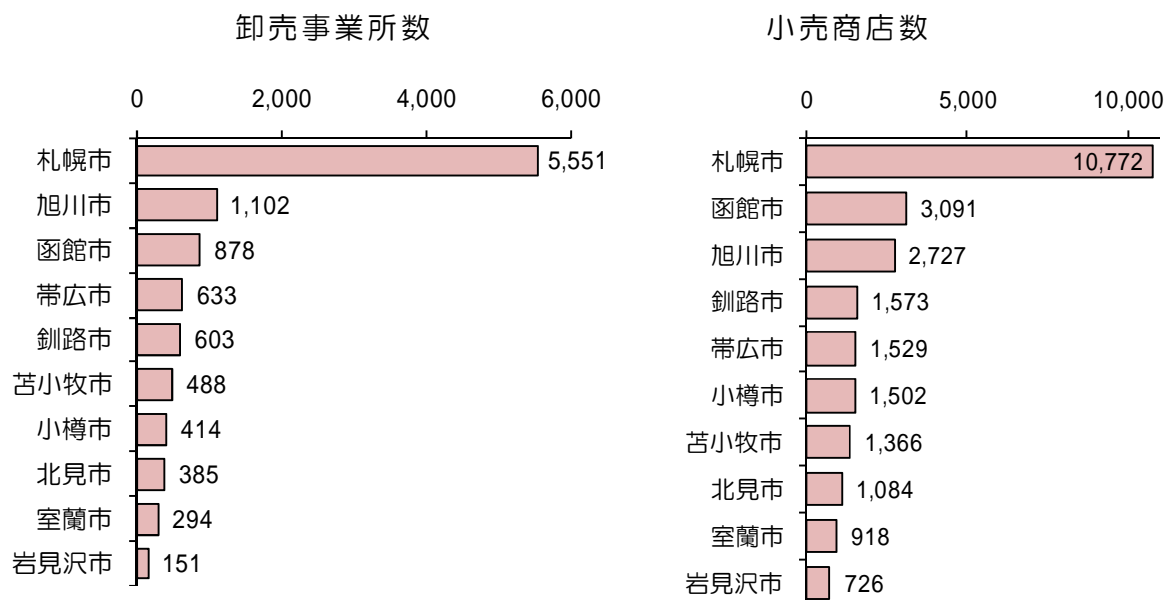
	事業所数		就業者数		年間商品販売額			
		全国順位	(人)	全国順位	(百万円)	全国順位		
全国	1,472,658	-	11,685,048	-	548,237,119	-		
北海道計	58,236	7	488,933	6	17,819,365	6		
卸売業計	13,687	5	129,829	6	11,662,826	6		
業種別	各種商品卸売業	63	3	610	5	193,646	6	
	繊維品卸売業(衣服、身の回り品を除く)	62	14	317	16	10,722	19	
	衣服・身の回り品卸売業	527	8	5,029	8	143,985	10	
	農畜産物・水産物卸売業	1,910	4	22,014	4	2,856,101	3	
	食料・飲料卸売業	1,533	5	17,064	6	1,458,333	5	
	建築材料卸売業	1,714	6	14,640	4	1,243,523	4	
	化学製品卸売業	534	5	3,724	8	288,841	9	
	鉱物・金属材料卸売業	636	6	6,080	6	1,544,474	6	
	再生資源卸売業	354	7	2,172	10	58,600	14	
	一般機械器具卸売業	1,335	5	11,794	6	673,218	9	
	自動車卸売業	875	5	8,484	5	340,553	12	
	電気機械器具卸売業	726	6	7,800	6	685,773	9	
	その他の機械器具卸売業	488	6	4,471	7	295,768	7	
	家具・建具・じゅう器等卸売業	402	11	2,842	9	131,831	11	
	医薬品・化粧品等卸売業	819	5	8,885	5	814,560	7	
	他に分類されない卸売業	1,709	6	13,903	7	922,897	6	
	小売業計	44,549	8	359,104	6	6,156,539	6	
	業種別	各種商品小売業	183	10	35,041	8	621,945	9
		織物・衣服・身の回り品小売業	6,100	7	27,457	9	349,934	10
飲食料品小売業		14,683	8	139,391	6	1,876,298	6	
自動車・自転車小売業		3,157	9	23,955	6	625,950	7	
家具・じゅう器・機械器具小売業		3,618	8	17,591	9	406,985	9	
その他の小売業		16,808	6	115,669	5	2,275,426	3	
医薬品・化粧品小売業		3,474	8	20,097	9	407,554	6	
農耕用品小売業		763	1	5,085	1	318,643	1	
燃料小売業		3,553	1	21,312	1	896,374	1	
書籍・文房具小売業		2,053	6	35,580	4	188,980	6	
スポーツ用品・かん具・娯楽用品・楽器小売業		1,102	9	6,241	9	98,451	9	
写真機・写真材料小売業		123	7	403	12	3,573	13	
時計・眼鏡・光学機械小売業		923	5	3,357	5	36,503	9	
他に分類されない小売業		4,817	8	23,594	9	325,349	9	

2. 市町村別の状況

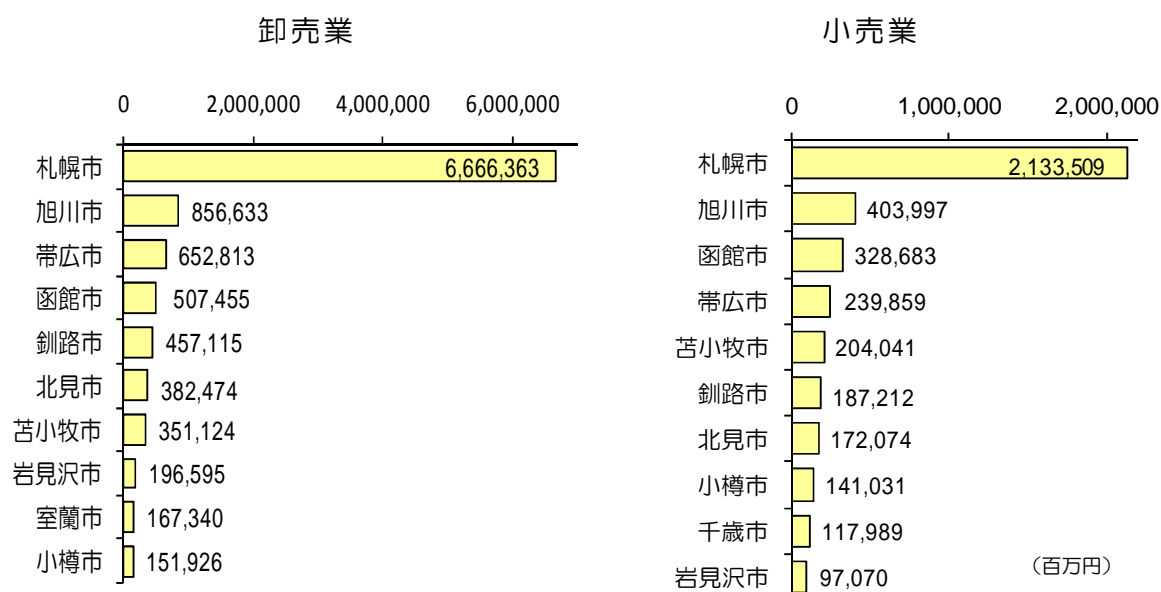
北海道の事業所数をみると、卸売業の40.6%を札幌市が占めています。小売商店では24.2%を札幌市が占め、次いで、函館市、旭川市、釧路市、帯広市の順となっています。

年間商品販売額をみると、卸売業は札幌市が北海道の57.2%を占め、次いで、旭川市、帯広市、函館市、釧路市の順となっています。小売業も北海道の34.7%を札幌市が占め、次いで、旭川市、函館市、帯広市、苫小牧市の順となっています。

【事業所(商店)数の上位10市町村】(平成19年)

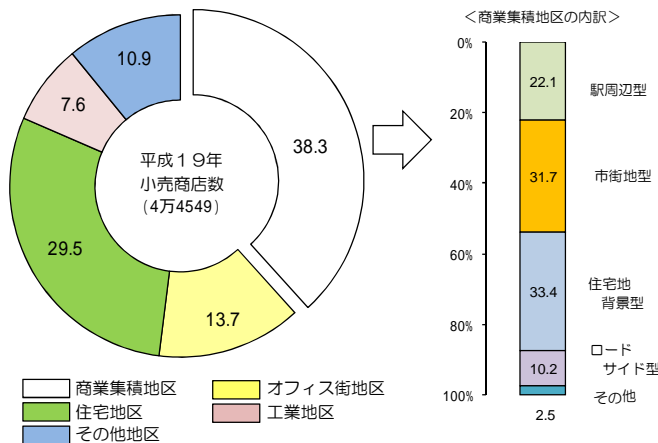


【年間商品販売額の上位10市町村】(平成19年)



3. 立地別にみる商店(小売業)

小売商店の立地をみると、商業集積地区の割合が38.3%、次いで、住宅地区が29.5%の順となっています。商業集積地区の内訳の割合では住宅地背景型の割合が高くなっています。また、ロードサイド型の商店数はアウトレットモールが開業したことなどから伸びています。



	19年商店数	対14年比 (%)
小売業計	44,549	12.7
商業集積地区	17,066	15.4
駅周辺型	3,770	18.5
市街地型	5,414	15.7
住宅地背景型	5,706	12.8
ロードサイド型	1,744	0.5
その他	432	48.8
オフィス街地区	6,107	0.1
住宅地区	13,155	18.0
工業地区	3,374	3.5
その他地区	4,847	10.8

4. 品目別年間商品販売額

品目別に年間商品販売額をみると、卸売では「他の建築材料」のほか、「生鮮魚介」、「他の農畜産物・水産物」、「野菜」など農畜水産物関連が上位に入っています。小売では寒冷地であることから「灯油」が上位に入っています。

【販売上位10品目】(平成19年)

